



酒田おもてなし隊

omotenashi-tai

活動記録集

JR酒田駅とコラボした山形DCの夏2014

酒田おもてなし隊 活動記録集

この報告書は、
平成26年に開催された「山形ステーションキャンペーン」において、
庄内開発協議会並びに東北公益文科大学地域共創センターの支援を受けて、
学生有志がJR酒田駅と連携して取り組んだおもてなし活動の記録である。

Part. I 酒田おもてなし隊活動の軌跡

山形県では平成26年6月14日から9月13日にかけて、10年ぶり6回目となる「山形デスティネーションキャンペーン」が開催された。デスティネーションキャンペーンは、JRグループ6社が地元自治体と連携して取り組む日本最大級の観光キャンペーンであり、山形県は「県民総参加、全産業参加」を活動方針に掲げて取り組みを行った。

東北公益文科大学では学生有志による「酒田おもてなし隊」を結成し、JR酒田駅とのコラボレーションにより様々なプロジェクトを立ち上げ、学生の視点を活かして山形デスティネーションキャンペーンに積極的に参加することとなった。

1. 酒田おもてなし隊の活動目的

JRグループ6社が地元自治体と連携して開催する大型観光キャンペーンである「山形デスティネーションキャンペーン」を庄内地域で盛り上げることを目的として活動する。

2. 酒田おもてなし隊の構成 *学年は平成26年の結成当時のもの。



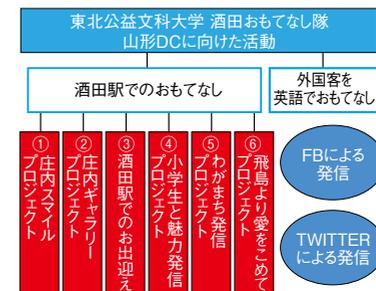
- 隊長 杉浦圭祐（3年）
- 副隊長 相内一彦、皆川一貴（3年）
- 映像監督 高橋良平（3年）
- 映像スタッフ 佐藤海、門脇昴祐、中澤智也（3年）
- 隊員 菊地悠花、高藤由貴、菅原奏、鈴木真幸（2年）
- 池田絵美、梅津沙耶、甲斐菊乃、佐藤七海、治部美里、田村迅、千葉結香梨、三上陽香、和田梨里（1年）
- 大隊長 中原浩子（教員）

3. 酒田おもてなし隊の活動内容

山形デスティネーションキャンペーンを盛り上げるため、学生自らがプロジェクトを企画立案し、JR酒田駅との企画会議を経て実行していった。

【酒田おもてなし隊プロジェクト一覧】

- 酒田駅おもてなしプロジェクト
- 庄内スマイルプロジェクト
- 庄内ギャラリートプロジェクト
- 飛鳥より愛をこめてプロジェクト
- 小学生と魅力発信プロジェクト
- わがまち魅力発信プロジェクト
- 外国人おもてなし隊プロジェクト



4. 酒田おもてなし隊プロジェクトの実施概要

(1) 酒田駅おもてなしプロジェクト

①酒田駅での送迎プロジェクト

i) プロジェクトメンバー

- リーダー 杉浦圭祐隊長
- メンバー 酒田おもてなし隊隊員（全員）

ii) 活動実績概要

見知らぬ土地に初めて降り立った時、最初に目に入る光景が若者の笑顔と元気の良い挨拶であれば、きっと観光客の心を和ませ喜んでもらえるのではないかと考えた企画で、酒田おもてなし隊活動の基本となるプロジェクトである。

「よく来たのお庄内さ」や「まだ来いのお庄内さ」と書かれた横断幕を掲げながら歓迎の小旗を振り、酒田駅発着の特急「いなほ」やジョイフルトレイン「きらきらうえつ」、普通列車（一部）、ツアーバスなどを利用する観光客を笑顔でお出迎えやお見送りする活動を、6月14日の山形DCオープニングから継続して毎週土・日・休日に行った。

iii) 活動風景



酒田おもてなし隊の活動を知った地元の方々から活動への協力の申し出があり、従来から酒田駅と連携していた浜田保育園に加え、天真幼稚園の「ちびっこおもてなし隊」が結成されるなど、地域住民の参画や協力の輪が広がった。

また、活動の途中からは、酒田商工会議所の協力を得て獅子頭の被り物をお借りし、酒田らしさを演出してお見送りを行ったところ観光客に大変好評で、写真撮影やフェイスブックでの投稿をいただくなど、大いに盛り上がりを見せた。老若男女を問わず、車窓から多くの観光客が手を振り返してくれたことも印象深い。

②インフォメーションコーナープロジェクト

i) プロジェクトメンバー 同上

ii) 活動実績概要

観光地や駅構内の案内をする役割を果たすことで観光客をサポートしたいという思いで始めたプロジェクト。

改札を出た観光客に「こんにちは」、「酒田へようこそ」、「庄内へようこそ」と若者らしく明るく挨拶して歓迎の意を表すとともに、酒田駅構内に設置した「酒田おもてなし隊」ブースにおいて、酒田市商工観光部観光振興課の協力によりご提供いただいた観光パンフレットを駆使しながら、学生自ら収集した見どころや地元の人気店、周遊ルート、移手段など、地元ならではの視点を加味した観光案内を行った。

この活動を通して学生の意識改革が進み、自ら地域に目を向けてその魅力を探って発信するなど、庄内地域を盛り上げたいという意識の成長がみられた。

また、市民有志の方々や酒田市職員の自主勉強会「みんな・ど・さがだ」の方々からは、学生の駅での観光案内の補助や地元観光地の研修機会の提供など、酒田おもてなし隊の活動を助けていただいた。

iii) 活動風景



(2) 庄内スマイルプロジェクト

i) プロジェクトメンバー

○リーダー 杉浦圭祐隊長

○メンバー 酒田おもてなし隊隊員（全員）

ii) 活動実績概要

酒田駅おもてなしプロジェクトは週末の活動になるが、平日に来庄する観光客に対しては、授業の関係から学生がおもてなし活動をすることはできないという課題があった。そこで、その課題を解消するため、地域住民の方々が笑顔で庄内の自慢や魅力、おすすめスポット、歓迎の気持ちを語る様子を撮影し、酒田駅で上映するというアイデアが考案された。

学生が授業の合間に手分けをして庄内中にビデオカメラを持って出掛け、地域住民の方々のご協力により、約400人分の笑顔あふれる心のこもったメッセージを収録した

庄内の魅力をその地域に暮らす方々が直接語るその映像は、隊長の杉浦、副隊長の相内、映像監督の高橋を中心に編集するなど、今回の酒田おもてなし隊活動の中で最も時間的にもマンパワー的にも労力が費やされたプロジェクトである。

学生によって編集された映像は、DC期間中に酒田駅や鶴岡駅で上映され続けたほか、DC最終日にジョイフルトレイン「きらきらうえつ」の車内でも上映され、庄内を訪れる方を笑顔でお出迎えした。

iii) 活動風景



(3) 庄内ギャラリープロジェクト

i) プロジェクトメンバー

○リーダー 櫻庭奈奈

○メンバー 酒田おもてなし隊隊員（全員）

ii) 活動実績概要

酒田駅を庄内の美しい景色のオーナメントで飾り付け、観光客を温かくお迎えしたいと櫻庭が発案したプロジェクト。

酒田市立第四中学校の生徒から庄内のおすすめの魅力ポイントをポストカードに書いてもらい、庄内の美しい風景写真と貼り合わせてラミネート加工を行い、オーナメントを作成した。

酒田駅の1番線ホームに吊り下げられたオーナメントにより空間ディスプレイを行い、山形デスティネーションキャンペーンで庄内を訪れた観光客に歓迎の意を表すとともに、庄内の観光魅力を発信し続け、DC終了後の12月31日まで酒田駅に飾られることとなった。

iii) 活動風景



(4) 飛島より愛をこめてプロジェクト

i) プロジェクトメンバー

○リーダー（映像監督） 高橋良平

○メンバー 杉浦圭祐

ii) 活動実績概要

酒田市沖には山形県唯一の離島「飛島」があり、日本の渡り鳥540種のうち270種も飛来するほか、透明度の高い海、多種多様な植物、海から望む鳥海山など風光明媚な魅力に溢れる観光エリアである。

幼い頃より庄内の海や山の魅力を満喫して育った遊佐町出身の高橋が、夏休み中に飛島に滞在してその美しい風景を撮影し、編集した動画を酒田駅構内に設置した「酒田おもてなし隊」ブースにおいて上映し情報発信した。

iii) 撮影地となった飛島



(5) 小学生と魅力発信プロジェクト

i) プロジェクトメンバー

○リーダー 皆川一貴

ii) 活動実績概要

観光まちづくりを専攻する皆川がゼミ活動の舞台とする酒田市升田地区で交流する小学生とともに升田の「魅力発信新聞」を作成し、酒田駅に貼り出して情報発信した。

皆川の企画により、地元の小学生が山形デスティネーションキャンペーンに参画するきっかけづくりとなった。

iii) 活動風景



(6) わがまち魅力発信プロジェクト

i) プロジェクトメンバー

○リーダー 池田絵美

ii) 活動実績概要

酒田おもてなし隊に8月から加入した池田絵美が担当。酒田おもてなし隊メンバーの中で唯一の酒田市民である池田は、以前は地元の酒田をあまり好きではなかったが、酒田駅おもてなしプロジェクトに参加して駅で活動するなかで、観光客に「酒田は良いところね」と言葉をかけてもらったことで故郷を見直すきっかけとなった。

その結果、自分が住む酒田市八幡地区の魅力をPRしたいとの思いに至り、八幡地区を自分の足で取材して「まち歩きマップ」を作成。DC最終週には酒田駅で観光客に配布し情報発信した。

iii) 作成マップ



(7) 外国人おもてなし隊プロジェクト

i) プロジェクトメンバー

○リーダー（隊長） 和田梨里

○メンバー 齋藤優、鈴木桃子、佐藤七海、千葉結香梨

ii) 活動実績概要

酒田おもてなし隊の活動の中から派生したプロジェクトチーム。外国人観光客が庄内を訪れたときの受け入れ体制整備に役立ちたいとの思いから、大学の英語サークルメンバーによる「外国人おもてなし隊」が誕生した。

まず第一弾として、庄内在住アメリカ人の協力を得て、外国人観光客を多数受け入れているあつみ温泉「萬国屋」をモデルに、外国人観光客がわからなくて困る日本語表記や日本独特のマナー、館内の利用方法などを実地確認して指摘を受ける形で現地調査を行った。

調査においてピックアップしたものを「外国人おもてなしマニュアル」として編纂し、7月に完成した。マスコミに取り上げられたこともあり、問い合わせを受けた宿泊施設や観光事業者等に資料提供した。

現在は第二弾として、外国人観光客が旅行の合間に自国の料理も楽しんで息抜きができるような飲食店を紹介する新たな構想の実現に向け動き出している。

iii) 活動風景



5. 酒田おもてなし隊活動記録

■プロローグ1 DC開幕まで4月14日～6月13日

※【SML】：スマイルプロジェクトの略称。

4月 2日 【J R】 酒田駅長より中原に山形DCに対する産学連携活動の提案

4月 4日 【J R】 酒田駅にて駅長と中原の初会合

4月 9日 【大学内】 杉浦隊長誕生

4月 9日 【大学内】 隊員勧誘のため1年生学生寮にアンケート調査
(杉浦、相内)

4月14日 【J R】 酒田駅と学生の初会合



【大学内】「酒田おもてなし隊」発足
(杉浦、相内、高藤、菊地)

【取 材】 山形新聞、庄内日報、
コミュニティ新聞、河北新報

【大学内】 相内、皆川副隊長誕生

4月17日 【大学内】 酒田市観光振興課と駅ボランティアガイド協会へ挨拶
(杉浦、皆川、中原)



【大学内】 高橋映像ディレクター誕生

4月21日 【大学内】 「庄内魅力発見ツアー」下見 (杉浦)

4月25日 【J R】 酒田駅にて企画会議 (杉浦、相内、皆川、中原)



5月 7日 【大学内】おもてなし隊プレゼンテーション 1年生全員履修授業にて
(杉浦、相内、高藤)

5月12日 【外国人】「外国人おもてなし隊」あつみ温泉「萬国屋」訪問(和田)

5月17日 【大学内】「庄内の魅力発信ツアー」実施
学生13名、酒田駅2名、教員1名



5月23日 【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影開始
(カトちゃん農園紅花畑)

5月25日 【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影
(酒田市消防団、鶴岡天神祭)



5月26日 【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影
(学内、酒田市消防署)

【取材】NHK、FMハーバーラジオ

5月28日 【取材】山形新聞、河北新報、NHK、FMラジオで報道される
【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影
(酒田市内 社会人サッカーチーム、スケートボード場)

5月30日 【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影
(最上川芭蕉ライン船頭、鶴岡)

5月31日 【J R】酒田駅プラットフォームでのおもてなし初参加
(杉浦、菅原、梅津、甲斐、三上、佐藤七海)



6月 5日 【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影
(山形銀行酒田支店)

6月 7日 【J R】駅前商店街の方、JR社員の方と駅前美化活動に参加
(杉浦、高藤、菊地、鈴木、佐藤七海、甲斐、梅津、浦山、中原)

6月10日 【SML】庄内スマイルプロジェクト撮影
(酒田市立第四中学校)



6月13日 【J R】駅1番線ホームをカードで飾り付け

■プロローグ2 DC期間中(6月14日~9月13日)

6月14日 【J R】山形デスティネーションキャンペーン開幕
全員揃ってオープニングセレモニー参加と駅での活動開始
駅からハイキングのお客様お見送りや駅ホームで送迎
庄内スマイルプロジェクト動画初上映
駅でのお見送り、観光案内実施
(杉浦、相内、高橋、皆川、菊地、佐藤七海、梅津、甲斐、田村、中原)



6月15日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
(杉浦、相内、佐藤七海、治部、中原)

【発 信】 升田地区の子供が作った作品を掲示
(皆川)

6月20日 【SML】 庄内スマイルプロジェクト撮影
(荘内銀行酒田中央支店)



6月21日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
(佐藤七海、千葉、中原、二階堂 [酒田おもてなし隊お助け隊])

6月24日 【SML】 庄内スマイルプロジェクト撮影
(松ヶ岡開墾場、出羽三山神社、いでは文化記念館)



6月26日 【SML】 庄内スマイルプロジェクト撮影
(加茂地区、大山、あつみ温泉駅)

6月28日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施 (SLイベントあり)
(杉浦、和田、櫻庭、中原)



6月29日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施 (SLイベントあり)
(佐藤七海、甲斐、梅津、中原)



7月 5日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
(千葉、和田、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊])

7月 6日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
(相内、三上、佐藤七海、梅津、甲斐、中原、佐藤 [お助け隊])

7月 7日 【外国人】 外国人おもてなし隊が制作した「外国人おもてなしマニュアル」
をマスコミ発表
(和田、斎藤、鈴木、千葉、佐藤七海)

【SML】 庄内スマイルプロジェクト撮影
(酒田市内、傘福屋)

7月12日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
(杉浦、佐藤七海、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊])



7月13日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施 (ぐるっと鳥海号)
(杉浦、治部、中原)



7月17日 【J R】 JR東日本新潟支社研修会にて活動をプレゼン（於：萬国屋）
（杉浦、高橋、櫻庭、中原）

聴講者：JR東日本新潟支社管内駅長



7月19日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、中原）

7月20日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、皆川、甲斐、佐藤七海、田村）

7月21日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（佐藤七海、中原）

7月26日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（佐藤七海、中原、浦山 [酒田おもてなし隊お助け隊]）

7月27日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、皆川、佐藤七海、池田、田村）

7月28日 【J R】 酒田駅長と会議
（中原）

8月 2日 【J R】 酒田花火ショー
（杉浦、相内、櫻庭、和田、千葉、佐藤七海、中原）



8月 3日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、相内、中原）



8月 9日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（甲斐、池田、佐藤七海、中原）



8月10日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（甲斐、三上、佐藤七海、中原）

8月16日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、中原、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊]）

8月17日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（中原、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊]）

8月18日 【飛 島】 飛島に動画撮影のため出発
（高橋）

8月23日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、皆川、中原、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊]）



- 8月24日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊]）
- 8月30日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（相内、中原）
- 8月31日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（杉浦、相内、池田）
- 9月 6日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（中原、佐藤 [酒田おもてなし隊お助け隊]）
- 9月 7日 【J R】 駅でのお見送り、観光案内実施
（相内、皆川）
- 9月11日 【J R】 SL乗車
（高橋、三上、佐藤七海）
- 9月13日 【J R】 DCファイナル 山形デスティネーションキャンペーン最終日
（相内、皆川、高橋、田村、佐藤七海、甲斐、三上、梅津、治部、池田、中原）
きらきらうえつに乗車し乗客とおもてなし交流、車内でスマイルプロジェクトの動画上映
（高橋、皆川、三上、甲斐、佐藤七海）
- 9月14日 【J R】 酒田駅100周年記念イベント
（杉浦、相内、高橋、皆川、三上、佐藤七海、治部、梅津、田村、池田、甲斐、中原）
酒田駅100周年記念イベントセレモニーにて記念講演
（中原）



■プロローグ3 DC閉幕後（9月14日～）

- 9月17日 【取 材】 山形新聞「やまがた観光復興元年」特集記事
（中原）
- 10月29日 【J R】 酒田駅にてサービス品質研究会の打合せ

- 11月1～2日【大学内】 酒田おもてなし隊活動振り返り合宿（鳥海高原家族旅行村）
（杉浦、相内、高橋、皆川、佐藤七海、池田、中原）



- 11月 7日 【J R】 酒田駅にてサービス品質研究会の打合せ
- 11月14日 【大学内】 27年度の活動継続を決定
- 11月14日 【J R】 JR東日本新潟支社サービス品質研究会で酒田駅と共に事例発表し、優秀賞受賞
（中原）
- 12月12日 【大学内】 新体制のあり方について検討
- 12月20日 【大学内】 地（知）の拠点整備事業「地域課題解決フォーラム」にて、活動報告発表（酒田おもてなし隊、外国人おもてなし隊）
- 1月23日 【大学内】 新体制による酒田おもてなし隊初会合
- 2月14日 【大学内】 公益大ウィークにて26年度活動報告（酒田おもてなし隊、外国人おもてなし隊）
（杉浦、三上、佐藤七海、千葉）
- 2月26日 【大学内】 次年度活動計画と組織体制会議
（治部、三上、佐藤七海、和田、千葉、池田、高橋、相内、中原）
- 3月 5日 【J R】 JR東日本本社のサービス品質研究会事例発表に同席
（中原）
- 3月12～13日【大学内】 新メンバー勧誘のための準備会議

6. 酒田おもてなし隊隊員レポート

(1) おもてなし活動を通して（隊長：杉浦圭祐）

山形DCCを契機とした酒田おもてなし隊の活動経験から、「地域」、「おもてなし隊」、「個人」の3つの視点で、酒田おもてなし隊の活動自体や酒田観光の現状について、自分なりにその課題を考察した。

～地域～

- 鉄道を利用する観光客にとって、観光地を巡るための使い勝手のいい二次交通の整備が期待される。
- お客様から一旦休憩するためのカフェの所在に関する質問が多いにも関わらず、駅周辺にほとんど存在していない。現在、酒田市役所で駅前開発の検討が進められているが、観光客目線でその方向性を注目したい。

～おもてなし隊～

- 授業やアルバイトとの兼ね合いもあるものの、参加率が課題となった。
 - 観光案内するに足る必要な知識が不足していた。
 - 活動後の反省ノートの内容を次回に活かすことがなかなか出来なかった。
 - 新たなアイデアを実行に移すことが出来ず、組織としての発展がなかった。
- この件は、リーダーとしての責任を強く感じている。

～個人～

- 隊員個人の責任感と持続力、向上心がやや欠けていた。
- 酒田駅からは私達のために多大な時間と労力を費やして頂いたが、それに見合うだけのパフォーマンスや活動が出来ていたのか疑問。

(2) 酒田おもてなし隊で活動して（副隊長：相内 一彦）

①活動を通して思った事

色々な人と直接触れ合う機会があった。それによって“酒田の人ってなんて人情深くてやる気に満ち溢れているんだ”、“俺はこんな人になりたい”と酒田の商人気質の良さを学ばせてもらった一方、“こんな人にはなりたくない”、“こんな細かいことで文句を言うてくる人もいるんだ”と思わされることもあり、世の中の広さみたいなものを学んだ。

嫌な事を言われたり指摘された点も多々あったが、私たちが行ったおもてなしはとてもシンプルで、尚且つクオリティーはなかなか高いものだと思っている。また、この活動は私たち大学生だったから出来たのではないかと最近になってそう思うようになった。

②活動を通して感じた事

ほとんど学生だけで活動をしたが、同じ気持ちで活動していただいた地域の方々や子供たちに対して、“地域の為に何かやってやるぞ”、“大学生が自分たちの

地元の為に頑張ってるんだから、俺たちも少しは力になりたい”という気持ちや思いが、その顔や態度に出ていなくても伝わった気がしている。そう考えると少しはいい事を地域の役に立つことをやったんだという気持ちになれた。

③今後の活動について考えた事

駅から主要な観光地までの移動距離（徒歩、自転車、車等）などを明記した地図を作成するべきである。徒歩での移動距離の許容範囲は一人ひとりに個人差がある。上記のような地図があれば、それに関する説明を簡略化でき、その分を他の案内などに費やすことが出来る。それは、観光地だけではなく、駅や主要な観光地周辺の休憩施設や飲食店のバージョンも作成できれば尚良い。

(3) DCCの活動を通して（外国人おもてなし隊隊長：和田梨里）

私が酒田おもてなし隊につながる事となる庄内アクション組に参加したのは、観光やおもてなしのお手伝いをしたいという元々の関心を実行に移せる活動であったからです。

庄内出身ではなく、観光客の方々ともこんなに間近に触れ合う経験をしたことがない私は、最初は満足なおもてなしをすることは出来ませんでした。そんな時、中原先生や隊長、副隊長の姿が、私たちのお手本であり、頼もしい存在でした。

また、中原先生が時間を割いて、おもてなしの際に使えるポイントやよく尋ねられる質問への対応方法、おすすめの観光スポット、1日で回れるツアーなど、講義形式で指導して下さったことも、その後の活動では自分の自信に繋がりました。

しかし、いざ聞かれた際にパンフレットや冊子を見て説明していたのでは、観光客の方が自分で調べることと変わりなく、余裕をもって対応することが出来ないと思います。駅構内でお出迎えをする際、知識をすべて頭に入れた状態で観光客と会話すること、さらに目を見て声をかけることが相手の心にも届くおもてなしとなり、また訪れたいと思っていただけるのではないかと感じています。

また、私たちの活動を自分の地元では行っていないと褒めてくださる方や、私たちの紹介した観光スポットへ行かれた後にわざわざ感想を伝えに来てくださる方などに接した時、その日偶然出会った方々とは思えない親近感や温かさを与えていただきました。しかし対照的に、様々なタイプの方がいることも勉強になりました。

言葉が詰まってしまうと、どうしても庄内の地元の方には知識が及ばないと消極的になることもありましたが、活動を行っていくにつれて対応に慣れていくことを実感しました。

私は、観光に訪れた地で、現地の人に温かく迎えられることほど思いに残ることはありません。この活動に参加していなければ、庄内の地でよその地方の方々とのように交流する機会はなかったものと思います。来年もまたこのような活動を続けたいと思います。

7. 酒田駅における観光客ヒアリングの結果

山形DC期間中に酒田駅に降り立った観光客100人をサンプリングし、年代、旅の起点、交通手段、目的地、知りたいこと、困っていること、庄内観光の感想など聞き取り調査を行った。

(1) 調査結果概要 (n=100)

①客層

◆年代 (単位：%)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
2.0	9.0	3.0	9.0	21.0	15.0	2.0	39.0

◆性別 (単位：%)

男のみ	女のみ	夫婦	混合団体	不明
39.0	30.0	14.0	15.0	2.0

②旅の起点 (どこから) (単位：%)

県内	東京	関東 (東京都内)	中京	関西	海外	その他	不明
2.0	16.0	10.0	2.0	5.0	4.0	7.0	54.0

③聞き取った話題 (テーマ) (単位：%)

飲食店	観光地	交通手段	宿	歴史文化	土産	その他	不明
21.0	38.0	14.0	3.0	3.0	5.0	10.0	6.0

(2) 調査の総括

- ①今年全般に2～3時間の滞在目的の観光客が多く見受けられ、その時間内でコンパクトに回れるコースを求める声が多かった。
- ②昼食地としての期待が多く寄せられていた。特に、13時7分着のいなほ利用者には酒田での昼食を楽しみにしている人が多かったが、14時に一旦閉店する飲食店が多いため、昼食場所の紹介が難しかった。
- ③電車待ちの間、特に飲食店が一旦閉店してしまう14時以降に、近隣にある喫茶店や軽食を取れる場所を求める声が多く寄せられた。
- ④バス運行ダイヤとのタイミングから、バス利用が難しく自転車利用できない人は周遊を諦めて駅舎で過ごす人もいた。
- ⑤7月～8月初旬の時期は、鳥海山・飛島目的の観光客が多かった。

(3) 聞き取り内容一覧

No.	日付	客層	どこから	聞かれたこと、感想など
1	6/28	シニア夫婦	松島 (車)	
2	//	女性5人	大阪	食べる場所
3	//		大阪	山居倉庫の場所

No.	日付	客層	どこから	聞かれたこと、感想など
4	6/28	60代夫婦		
5	//	50代男性	名古屋	
6	//	50代男性	神奈川 (車)	食べる場所 寿司が美味しいと感想 これから秋田に行く
7	//	60代女性	大阪	食べる場所 昨日かんぼ泊、前日飛島泊 朝焼けの鳥海山が綺麗
8	//	60代女性	東京	
9	//	60代女性	関東	食べる場所 駅前出店テント利用
10	//	40代男性	埼玉	次回のためにパンフ収集
11	//	50代男性	都内	
12	//	60代夫婦	岩手	
13	//	70代女性2人	福島	福島→岩手→青森と移動
14	//	50代女性2人	栃木	福井→新潟→角館の3泊4日
15	//	シニア夫婦	福井	良いところなので移住したい 学生が頑張っている
16	//	40代男性		獅子頭の意味
17	//	50代男性		リムジンバス乗り場
7/5 グルメ列車たべっしゃ kenji 号運行				
18	//	夫婦	埼玉	月山に自転車で行く最寄駅
19	//	男性2人	東京 (車)	山居倉庫の場所
20	//	60代女性	能代	鶴岡からハイキングで羽黒山へ
21	//	30代女性		徒歩圏内のラーメン屋の場所
22	//	30~40代男性	角館	徒歩圏内のラーメン屋の場所
23	//	50~60代男性2人	東京	ラーメン以外で食べる場所
24	//	家族連れ		レンタカーの場所
25	//	男性2人	東京	夕日が綺麗な場所
26	//	40代男性		イオン行きのバス
27	//	男性		1時間で岩ガキを食べたい
28	//	50~60代女性8人		庄内おばこ号の発車時間までに回れる場所

No.	日付	客層	どこから	聞かれたこと、感想など
29	6/28	30代男性		海が見える場所 レンタサイクル利用
30	〃	60代男性	東京	国指定文化財や重要文化財
31	7/6	男性	栃木	数回来ているが初めて列車利用 車がないと周遊には不便
32	〃	男性	東京	鳥海山山頂小屋泊、影鳥海も見た 東京でも山形のイベントを見る 山形は凄いい、おそるべし
33	〃	家族4人(子ども 小学生~幼稚園)	台湾から 個人旅行で	山居倉庫に行った これから秋田に向かう JR利用で移動している
34	7/12	50代女性		山形DCの商品引換券
35	〃	家族連れ		喫茶店の場所
36	〃	30代女性		土門拳記念館の場所とその近くで食事できる場所
37	〃	20代女性	フランス	パンフレット、マップ、Wi-Fi
38	7/19	男性	熊谷	本間美術館の場所
39	〃	男性		美しい場所の写真撮影が目的
40	〃	男性		観光周遊バス
41	〃	40代女性		書店の場所
42	〃	男性		山居倉庫への徒歩での行き方
43	〃	50代夫婦		そば屋の場所
44	〃	50代夫婦		レンタル自転車の場所
45	〃	家族連れ		とれいゆのパンフレット
46	〃	夫婦		昼食場所
47	〃	夫婦		大人の休日倶楽部引換券
48	〃	夫婦		ラーメン以外で短時間で食べられる場所
49	〃	男性2人 小学生4人		ボーイスカウト活動で来た 観光パンフ収集、
50	〃	女性		1日で酒田を見て回りたい 帰ったら友人に教える予定
51	〃	40代男性		最終目的地は鳥海山
52	〃	夫婦		レンタサイクル利用 酒田のマップがほしい

No.	日付	客層	どこから	聞かれたこと、感想など
53	7/19	50代男性	八王子	写真撮影目的 こまちーいなほ利用の2泊3日 レンタカー借りて回る 酒田の宿は満室で取れなかったから鶴岡に宿を取った
54	〃	60代男性	熊谷(車)	本間美術館へ行く 駐車券紛失してカウンターに来た
55	7/21	50代男性		すぐにお昼食べられる
56	〃	50代女性		山居倉庫への行き方
57	7/26	50代女性		秋田に行って花火見て横手に泊まる 7/26は東京・神奈川からの観光客が多く、昼食場所を聞かれることが多かった 風っ子号も来たので、25組のちびっこおもてなし隊も来酒
58	7/27	男性数名		たばこを吸える場所
8/2 酒田花火ショー開催				
59	8/2	70代男性	東京	鳥海山端の小屋泊予定
60	〃	50代男性	東京	先月も来た 岩木山、駒ヶ岳、鳥海山に登った 花火までに風呂に入りたい
61	〃	60代男性	市原	鳥海山目的
62	〃	男子高校生	余目	花火撮影
63	〃	20代男女	東京	花火大会で宿が取れなかった
64	〃	60代女性	東京	法事のため 本間美術館、本間家旧本邸、ケルン、白崎医院、花火の予定
65	〃	高校生団体	米沢	陸上部の合宿利用
66	〃	4人連れ		温泉送迎付きの宿を探している
67	8/3	60代夫婦	東京	花火大会→秋田→ねぶたの予定
68	〃	60代女性		今日は長岡花火 酒田花火は良かった
69	〃	女性		サンフランシスコ2年→フランス・アメリカ 20年住んでいる、帰省
70	8/3	50代男性	神戸	花火後、秋田竿燈まつり行って角館回りで東京へ行く
71	〃	大学生約20人	東京	大学女子バスケットチーム合宿

No.	日付	客層	どこから	聞かれたこと、感想など
72	8/3	20代男2女2	大阪・兵庫	夜行バスで山形へ レンタカー利用 鳥海山山頂から花火を見たが美しさに感激 列車で帰る
73	8/9	20代女4人	東京	クラゲ水族館 酒田で海鮮を食べたい
74	〃	20代男女		海鮮を食べたい
75	〃	20代男女		海鮮を食べたい
76	〃	20代男		ラーメンを食べたい
77	〃	40代女性		地元名産品を買いに来た
78	〃	60代女性	函館	ハガキを持ってきた
79	〃	家族連れ	横浜	鳥海山登山
80	〃	5人家族連れ 小学生～3歳	パリ	フランスで遊佐の人にお世話になったので 来てみた 酒田・遊佐を回ったが古いものをきちんと残 っていて素晴らしい 徳尼公の廟に行きたい、寺町の風情がいい *子供にこの風景をしっかりと見せたいとレ ンタサイクルで時間ギリギリまで見学、3歳 児を載せる椅子がなかった。
81	8/16	50代女性		歩いてお米を貰える場所
82	〃	50代男性		酒田の駅弁を売る場所
83	〃	50代男性		空港発酒田駅行バスの停車場
84	〃	50代女性		きてける君グッズの販売場所
85	8/17	家族連れ		とらやの場所
86	〃	40代女性	香港	昨夜新庄泊、今日鶴岡泊、明日新潟に行く NK エージェントを見るため来た
87	〃	60代女性	清水市	実家が酒田 親を看るために定期的に帰省
88	〃	60代男性		酒田で1.5時間で行ける場所
89	〃	20代女性	東京	初孫資料館への交通手段
90	8/23	40代男性		国宝を教えて欲しい
91	8/24	50代男性		駅弁を紹介して欲しい
92	8/30	夫婦		土門拳までの行き方

No.	日付	客層	どこから	聞かれたこと、感想など
93	〃	夫婦		土門拳までの行き方
94	〃	男性		冷やしラーメンを提供する店
95	〃	女性		湯野浜への行き方
96	〃	男性		昼食の場所
97	〃	男性		2～3時間で観光できるコース
98	9/7	多数		1～2時間で観光できる場所
99	9/13	多数		宿泊施設、山居倉庫への行き方
100	〃	女性		コインロッカーの場所

8. 酒田おもてなし隊の活動総括（大隊長：中原浩子）

「酒田おもてなし隊」は授業でもサークルでもなく、山形DCを契機に東北公益文科大学の学生有志が集って結成した団体です。

最初はDCが何であるかもわからなかった学生が、一人また一人と仲間を増やしなが、若者らしい自分たちの言葉でDCを地域の方々へ一生懸命に説明し、「地域を盛り上げましょう！」と呼びかけました。その輪は地域に広がりを見せ、「山形DC知ってるよ、酒田おもてなし隊知ってるよ、自分にできることなら協力するよ」と言っていただけになりました。また、笑顔でのお出迎えやお見送り、カウンターでの案内に対し、観光客の方から「楽しかった、美味しかった、また庄内に来るよ」と帰り際に学生に声をかけていただくなど温かい交流が生まれました。

学生たちは、この活動を一過性とするのではなく大学の継続的な取り組みとすること、自分たちが地域の魅力に気づきそれを語るができる人になることを目指し、授業と部活とアルバイトで時間のない中、寝る間を削って取り組んでくれました。酒田おもてなし隊の経験がきっかけとなり、学生たちはこれまであまり意識することのなかった地域社会との関係において、自らの役割や可能性を真剣に考え、若い力で庄内地域、或いは生まれ育った地域を盛り上げていこうという意識が芽生えています。

観光とは「地域に光を観る」ことだと言われます。今回の山形DCにおける酒田おもてなし隊の活動は、まさに学生の地域を盛り上げたいという想いが結実し、この地を訪れたお客様の心に山形の小さな光となって爽やかに輝いたのではないのでしょうか。その成長した姿は自信に満ち、逞しく、指導教員として学生一人ひとりを誇りに思えます。

しかし、彼らの成長はこの活動を一緒になって応援し支えてくださったJR酒田駅や地域の皆さんのお力添えがあったからこそ実現したものです。隊長の杉浦が語っていました。「酒田おもてなし隊の活動は、自分たちの夢を酒田駅や地域の皆さんが叶えてくださった活動です」と。この紙面を借りて、心より厚く御礼申し上げます。

酒田おもてなし隊の名前には、庄内地域全体の活動になることを願って大学名が入っていません。山形DCによって“きっかけ”を得た私たちは、「住んでよし、訪れてよし」のより楽しく暮らせる魅力ある地域となることを目指して、今後は庄内全体に活動の輪を広げていきたいと考えています。

Part. II 酒田おもてなし隊メイキングストーリー

（酒田おもてなし隊構想の誕生の瞬間）

平成26年4月2日、酒田駅長の佐藤一晃氏より東北公益文科大学特任講師の中原浩子の元に一本の電話がかかった。佐藤駅長は言った、「中原さん、6月から山形デスティネーションキャンペーンが始まります。酒田駅と大学とで何か一緒に取り組めないでしょうか」。すべてはこの一本の電話から始まった。

佐藤駅長は、酒田駅に降り立つ観光客に若い学生が何かおもてなしするようなことはできないだろうかと中原に投げかけた。「観光は人の魅力なり」という持論を持つ中原と、「地域に根ざす企業」を目指す佐藤駅長の想いが一致するのは早かった。「やりましょう、駅長。学生によるおもてなし隊、やってみましょう」。中原の口から反射的に言葉が進った。

（杉浦隊長との出会い）

大学に2月末に着任したばかりの中原は、3月に行われた大学後援会主催の「一流体験合宿型研修」の担当として学生を引率したのが初仕事となったが、そこで親しくなった学生の相内一彦にこの企画を話した。相内は青森県むつ市の出身だ。大学内でも意欲的に様々な活動を行っていた相内は、4月9日に一人の男子学生を中原の研究室に連れてきた。彼こそが酒田おもてなし隊初代隊長を引き受けることになった杉浦圭祐だった。

相内に連れられ中原の研究室を初めて訪れた杉浦は、弾丸のように飛んでくる中原の言葉に、ただじっと椅子に座っていた。後日、杉浦は「あの時は先生の話に圧倒され自分の想いを何も表現できなかったです」と話してくれた。しかし、その朴訥とした語り口でありながら、隊長としてこの活動に参加したいという決意をはっきりと告げた。

これが、この後、猛烈な勢いで共にプロジェクトを進めていった中原と杉浦の出会いだ。

（酒田おもてなし隊発足）

若者たちの行動は早かった。中原と出会ったその日その場で杉浦と相内はメンバーを募るためにアンケートを作成し、1年生が暮らす学生寮にスケートボードを走らせ全戸配布してきた。そこまでかかった時間はわずか1時間だった。

その後も杉浦と相内は、これはと思う学生を一人また一人と中原の研究室に連れてきた。

その中に、将来、映像クリエイターを目指す高橋良平、そして観光を学ぶ皆川一貴、のちに「外国人おもてなし隊」のリーダーとなる和田梨里がいた。

佐藤駅長の動きも早かった。4月14日に酒田駅2階会議室でJR社員と学生の顔合わせの場を設定。その会議の場で、酒田駅と学生が力を合わせて山形DCを盛り上げていくことを合意し、「酒田おもてなし隊」発足をマスコミに発表。翌日の新聞誌面で広く紹介されることとなった。

（全速力で始まった準備）

酒田おもてなし隊の発足からDC開幕まで残り2ヶ月という限られた時間の中で、学生たちは全てを同時進行で進めていった。

杉浦の補佐として副隊長に相内と皆川が就くことが決まり、映像担当の役割を高橋が担うこととなった。

活動を始めるにあたり、4月17日に酒田市観光振興課と酒田駅観光案内所の観光ガイド協会に挨拶に向かった。

（学生主体の庄内の魅力発見ツアーの開催）

酒田駅との2回目の企画会議が4月25日にセットされていた。その日までに取り組むべきプロジェクトの企画を打ち立てる必要があると考えた中原と学生たちは、何度も話し合いを重ね、自分たちのアイデアを形にしていっていった。

杉浦は、メンバー集めを目的とした「庄内の魅力発見ツアー」の開催にこだわった。その中でも、切望していたのがバーベキューパーティーだ。自分たちで予算を計算し、少しでも安いお店に買い出しに出かけた。当日の朝、荷物搬入のため杉浦のアパートを訪ねた中原は、小さなキッチンでひたすら玉ねぎを刻んでいる寝起き姿の杉浦を微笑ましく眺めた。3年男子による野菜の下ごしらえや飲料の準備も万端に、酒田駅の多大なる支援によりツアーは無事催行された。雨天のため、鳥海高原家族旅行村の食堂で杉浦念願のバーベキューを行うことになったが、この企画により山形DCの暑い夏に向けた隊員同士の団結力は強固なものとなり、隊長の初仕事は大成功を収めた。

（酒田おもてなし隊の始動）

DCまで一ヶ月を切るこの頃、メンバーも20人程集まった。酒田おもてなし隊幹部の杉浦、相内、皆川が中心となり、昼休みに週2回のペースで学生会議を開き、打ち合わせをしたのち、急ピッチで企画実現に向けて動き始めた。駅で活動するにあたり、ユニフォームが必要ではないかと学生から意見が出た時、観光業務に携わる佐藤駅長と中原は定番である法被を提案したが、学生全員からNGが出され、ポロシャツに決まったことに世代の違いを感じ、佐藤駅長と中原は苦笑いした。ポロシャツのデザインは酒田駅のご厚意で学生に一任され、背中に大きく山形DCキャラクターの「きてけるくん」と酒田おもてなし隊の文字がプリントされた若々しいブルーのユニフォームに決まった。

（庄内スマイルプロジェクト）

山形DC開幕を翌月に控えた5月下旬、猛スピードで始まった庄内スマイルプロジェクトの撮影のため、中原は遠方に向かう杉浦と高橋を車に乗せて庄内中を走り回った。酒田市内や学内などは1年女子も撮影を担当した。

撮影をお願いする際は事前予約を勤める中原だったが、ある日、持ち前の明るさで「ア

ボなしで大丈夫です！」と元気にスケボーで街に繰り出した杉浦は、打ちひしがれて帰ることになる。「30人に声かけて全員に断られました」と。それ以降、中原は撮影への協力依頼文と酒田おもてなし隊の新聞記事を各自に持たせることにした。

撮影に携わった学生たちは、「最初は庄内は何もねえの～と言っていた方が、少しすると、庄内はあれもいいの～、これもいいの～とたくさん話し始めるのが印象的」、「撮影する自分たちが地域の人にたくさん庄内の魅力を教えてもらった」と興奮気味に語った。

ある日、中原、杉浦、高橋の三人で鼠ヶ関まで出かけたとき、撮影に快く協力していた丸丸武鮮魚店では、いつも空腹にしている学生に焼き魚や飲み物まで振る舞って頂き、彼らは地元の人の優しさを心に刻んだ。

撮影データが集まると、DC開幕の1週間前から杉浦、相内、高橋、佐藤海など3年男子を中心に連日連夜の寝ずの編集作業が中原研究室前の作業スペースで始まった。彼らはアルバイトを終えた深夜23時から集合して編集作業を行っていた。椅子を並べて眠っている学生たちを翌朝出勤する中原は連日見ることとなり、彼らの責任感の強さに感激した。学生たちが徹夜して編集した動画CDが酒田駅に届いたのは、DC開幕当日の6月14日朝9時のことである。

その動画を見た佐藤駅長は出来栄に驚いたようで、「きらきらうえつの車内でこの動画を流したいから鼠ヶ関から酒田までの動画を制作してもらえないか」と学生たちに声をかけた。

（庄内ギャラリープロジェクト）

女子学生を中心に駅を華やかに空間デザインするオーナメントの加工作業が始まったのは、DC開幕まで3日と迫った6月10日だった。

酒田四中の生徒が心を込めて書いてくれたカードをラミネート加工する時、設定を間違えて機械が壊れたり文面に合った画像が手配できなかったりトラブルに見舞われた。大慌てで何とか仕上げたのがDC開幕前日の夕方だった。

その日の深夜、酒田駅1番線ホームの飾り付けを行っていた相内、櫻庭、中原は、新潟駅からいなほに乗ってきたJR東日本新潟支社の中村営業部長と佐藤駅長の目に止まり、労いの言葉をもらえたことで疲労困憊状態から復活した。すべてを飾り終えた時、時計の針は1時を指していた。

（酒田駅おもてなしプロジェクト）

睡眠不足であるはずの学生は晴れやかに全員がお揃いの青いポロシャツを着て開幕の日

に駅に立った。駅からハイキングのお客様やホームでの歓迎やお見送りの声かけが始まった。いよいよ山形DCがスタートしたのだ。

学生の中には内気で声かけすら躊躇する者もいたが、中原は当日になって気づき慌てたことがある。DC開幕に合わせた準備に時間を取られ、学生たちは観光知識を学ぶ準備が

できていなかったのだ。酒田おもてなし隊の学生は高橋と佐藤七海を除き庄内出身者ではなかった。特に、1年生は庄内に引っ越してまだ2ヶ月という者ばかりだ。中には案内の時に何も答えらず、観光客にお叱りを受けた学生もいた。

そこで、酒田駅によって用意された酒田おもてなし隊事務所で、毎回活動後に反省会を行い、課題を皆で共有し解決していった。

しばらくして、「お客様からの声」というカードに学生の活動を褒めたメッセージが駅に届いたり、フェイスブックでお褒め頂いたりすることが学生たちの支えとなった。

（お客様の声）

観光案内に立って学生が困ったことがいくつかある。

13時7分の特急いなほまで到着したお客様が楽しみにしている昼食のお店を紹介できないことだ。駅近辺の飲食店は14時で一旦閉店するところが多い。また、バスの利用を望むお客様にちょうど時間の合うバスの運行がないため、中には酒田市内を散策しないで駅の待合室で時間を潰さざるを得ない人もいた。

学生にとっては酒田における観光の課題を最前線で学ぶ機会となった。

（酒田おもてなし隊を助け隊と支え隊の出現）

7月を迎え、学生たちは試験の時期に入った。また、酒田おもてなし隊に参加している学生は意欲的な学生が多いため、夏休みには短期留学や地元の地域活動を行うために酒田を離れる者も多く出た。人員確保に窮していた時、活動を支えようと市民有志による「酒田おもてなし隊を助け隊」と酒田駅長による「酒田おもてなし隊を支え隊」が登場した。おかげで期間中の全ての土日休日を欠くことなく最後まで活動を続けることができ、大変ありがたい存在であった。

（庄内スマイルプロジェクト続編）

1000人の笑顔の撮影を目標としていたため、DC期間中も杉浦、相内、高橋らは庄内スマイルプロジェクトの撮影を続け、最終的には400人超の撮影は達成できたと思われる。

学生の頑張りに対して、酒田おもてなし隊を支え隊の酒田駅長や駅員の方々からは、飲み物の差し入れやSLに乗りして観光客と交流する場面を作っていただいた。さらにDC最終日には、ジョイフルトレインきらきらうえつの車内で庄内スマイルプロジェクトの動画を上映し、学生が列車に乗ってPRをする機会を作ってくれた。その車内での観光客との交流は学生にとって忘れられない貴重な体験となった。お客様と親しくなり、勧められるままに日本酒をご馳走になってしまった学生も現れたのには冷や汗が出た。

（JR東日本新潟支社サービス品質研究会）

9月14日には「酒田駅100周年記念イベント」に参加し、式典で活動報告を行う栄誉を得た。それだけに留まらず、佐藤駅長のご配慮で、11月14日に開催されたJR東日本新潟支社サービス品質研究会という場で、酒田駅とコラボした活動事例と一緒に発表し、なんと優秀賞を授与された。また、翌年の3月5日には、JR東日本本社で開催されたサービス品質研究会でも酒田駅員の方からこの活動を発表して頂いた。

（酒田おもてなし隊NEXTステージ）

学生たちの不断の努力によって進められた酒田おもてなし隊の数々のプロジェクトは、酒田駅や地域の方々など多くの支えによって、9月13日に無事幕を閉じた。

学生の26年度の活動を受けて、27年度はさらにその活動を深化させ、地域に広げるものとしたいと次の計画を話し合っている。

○自分たちが庄内の魅力を語る人になることを目的に学びを深める。

○駅で多く尋ねられた2～3時間の街歩きコースを作る。

○駅構内で多く尋ねられた場所の案内サインを酒田駅と共同で検討する。

今後はこの活動が学生だけでなく地域全体の活動に広がることを願って取り組んでいく。

○編集後記

平成26年春にJR酒田駅の佐藤駅長からお声掛けをいただき、4月の企画会議から必死で準備を行って、観光客とともに楽しんだ「山形日和・山形DC」の夏もあっという間に過ぎました。この間、酒田おもてなし隊は、土・日・休日に一日も欠かすことなく慣れない観光案内に立ち、地域に関する知識の無さを知り自分の未熟さや観光客からの叱責に心が折れそうになる中、学業とアルバイトの合間を縫い、寝る間も惜しんで活動に取り組みました。山形DCが終わる頃には、逞しく成長した姿に担当教員として感動すら覚えここまで頑張ってくれた学生に心から感謝を言いたいと思います。

また、山形DCという仕事の範疇を越え、陰に日向に私どもの活動のすべてを温かく見守り支えていただいたJR酒田駅の佐藤一晃駅長はじめ駅員の皆様、JR東日本新潟支社の皆様に心より感謝を申し上げます。

酒田駅長が常にお話しくださいました「DCは地域づくりのきっかけ」という言葉を胸に、私ども酒田おもてなし隊の隊員一同は、庄内の“地域の光”が一段と輝きを増すことができるように活動を続けてまいります。

大隊長 中原 浩 子

Special Thanks

東日本旅客鉄道株式会社新潟支社営業部長 中村浩之様

// 新潟支社の皆様

東日本旅客鉄道株式会社酒田駅長 佐藤一晃様

// 副駅長 平山正浩様

// 駅員 佐竹貴美子様

// 酒田駅の皆様

庄内スマイルプロジェクトにご出演いただきました庄内地域の皆様

酒田市立第四中学校の生徒、教職員の皆様

鶴岡市鼠ヶ関・丸武鮮魚店の皆様

一般社団法人酒田観光物産協会様

酒田市観光ガイド協会の皆様

酒田商工会議所様

酒田市商工観光部観光振興課様

庄内開発協議会様

庄内観光コンベンション協会様

山形県庄内総合支庁産業経済部産業経済企画課観光振興室様

酒田おもてなし隊を支えていただきました全ての皆様

* 職名は山形DC当時のものです。

酒田おもてなし隊活動記録集 ～JR酒田駅とコラボした山形DCの夏2014～

○2015年3月20日発行

○編集/文 東北公益文科大学 特任講師 中原浩子

○発行 東北公益文科大学 中原浩子研究室

〒998-8580 山形県酒田市飯森山3丁目5番地の1